

校内研修計画

塩山北中学校

1 学校課題

近年、情報化や科学技術の高度化、国際化など、社会はめまぐるしい変化を遂げ、生徒を取り巻く環境も大きく変わりつつある。その社会情勢を踏まえ、今後の教育課題について考えてみたとき、激しい社会の変化にも、柔軟に適応できる能力を育成することが必要であると思われる。社会の変化に適応できる力、すなわち自らが進んで問題を解決し、主体的に活動できる能力をすべての生徒に身につけさせることが、学校教育の今日的課題である。

本校は、大菩薩山嶺の扇状地に広がる農村地帯に位置する小規模学校である。幼少期から少人数の学級で過ごしてきたため、友人との関わりや他者とのコミュニケーションが苦手な生徒が多い。また、何事にも真面目に取り組むことができるが、主体的に物事に挑戦しようという意欲やよりよいものを創造したり、表現したりしようとする意欲に欠けることが課題である。

2 研究主題

心豊かで主体的に活動する生徒の育成 ～集団づくりと授業づくりの実践を通して～

3 主題設定の理由

平成29年3月に文科省から次期学習指導要領の告示がされた。その中で、これまでの教育実践の蓄積を生かし、「豊かな創造性を備え持続可能な社会の創り手となることが期待される子供たちが急速に変化し予測不可能な未来社会において自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力をいっそう確実に育成することとした。」さらに、社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程を重視した」との記述がある。これからの時代を生きる子どもたちには、自立した人間として多様な他者と協働しながら、社会の変化に対応し、考えて行動する力が必要だとされた。そして、そういった力をつけるために、課題の発見、解決に向けて、主体的・協働的に学ぶ学習のより一層の充実が求められている。甲州市で取り組んでいる「確かな学力」育成プロジェクトも次期学習指導要領の流れを受け、「時代の変化に適応し、将来にわたって自立して生きていくことができる力を育成することを基本的な考え方」とし、「授業づくり・授業改善」「学級づくり・集団づくり」、「保護者・地域住民との連携」の3つに視点をあて取り組んでいる。

平成28年度に実施された「全国学力・学習状況調査」などの結果については、甲州市内中学校の学習内容の定着は全国の結果と比較しても良好な結果であった。課題であった活用に関する問題であるB問題の正答率も高くなっている傾向があり、知識や技能を生活の様々な場面に活用する力も高まってきている結果となった。これまでの取組の成果が表れている結果となっているので、今後も継続して、知識・理解とともに活用し、考える力を育む取組が必要である。

本校では、「心豊かで主体的に活動する生徒の育成」という研究主題のもと、研究を進めてきた。甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの「学級づくり・集団づくり」に着目し、QUアンケートを活用した実践を行うなど、各学級のより良い集団づくりに結びつき、学級集団としての質の向上を図ってきた。さらに一昨年度は、QUアンケートの活用を継続しながら、新たに甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの「授業づくり・授業改善」にも注目し、「心豊かで主体的に活動する生徒の育成～集団づくりと授業づくりの実践を通して～」と副主題を改め、集団づくりと授業づくりの両面から研究を進め、学び合い支え合う学級集団を目指すことができた。

今年度は、この研究主題・副主題の継続研究3年目とし、「授業づくり」と「集団づくり」の両面から研究を深めたい。次期学習指導要領の改訂に伴う移行に向けての取り組みを念頭、各教科の特色を生かし、生徒同士が学び合う授業づくりを進めていくことで、集団として互いに関わり合い、学び合う力が高められるということを仮定し、本主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

(1) 集団づくり

① Q U アンケートを活用し、K 1 3 法を取り入れた支援法(エンカウンター・ソーシャルスキル)の研究と実践

② 塩北ライフの実践

- ・挨拶，授業規律，生活規律の徹底
- ・学級集団だけでなく，部活動や集会，行事を通して返事，挨拶の徹底
- ・その場に応じた言葉遣い
- ・日々の表現活動(スピーチ，掃除の反省会，生活記録ノート)

(2) 授業づくり

① 甲州市ティーチャーズノートを活用した「見通し・振り返り」を大切にした授業の実践

- ・「めあて(目標)」「まとめ(振り返り)」というマグネットを活用し，全授業で同じ形態で授業を進めるよう工夫する。
- ・座席表に要支援の生徒が分かるような工夫をする。→少人数の学校なので校内研の中で全教職員が把握できるようにしていく。
- ・1時間の授業が黒板に収まるように板書計画をたてる。
- ・Q U を取り入れた指導案を作成する。

② 基礎学力の定着に向けての実践

- ・毎週行われる学力定着テスト(ランクアップテスト)，定期試験前の学習会(北斗タイム)の実施
- ・家庭学習への取り組み(毎日10分の「家庭学習スタンバイ」の時間を活用)
- ・読書活動の推進(朝読書，一斉読書の取り組み)
- ・夏休みの学習会の実施
- ・N R T の実施と活用
- ・各教科における取り組みの明確化・実践

③ 次期学習指導要領の移行準備

- ・各教科等における改訂の具体的な方向性の確認・理解

年間校内研修計画

研究主任 西 直子

研究テーマ	教科領域等	担当者	学年	授業の時期	T・C 要請
甲州市ティーチャーズノート学習会	全教科	研究主任	全学年		
Q U アンケートの分析と活用	全教科	全員	全学年		
指導案検討と研究授業		研究主任 授業者		9月 11月	○ ○
甲州市内臨地研修(ブロック研究会)	情報教育	研究主任	全学年		
小中学校授業公開(ブロック研究会)	全教科	研究主任 授業者	全学年	11月(小学校) 1月(中学校)	
塩北ライフの活用	全教科	全員	全学年		

